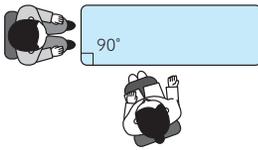
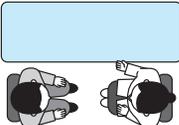
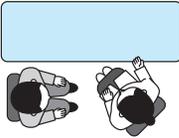
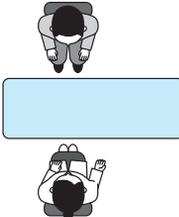


『ファーマシューティカルコミュニケーション』 正誤表

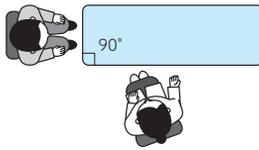
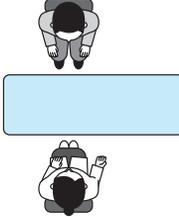
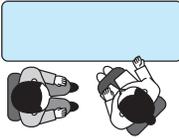
いつも小社出版物をご利用いただき誠にありがとうございます。

本書 p.158 図 6-6 に以下の誤りがございました。深くお詫びするとともにここに訂正いたします。

誤

直角法 (90°法)		何か共通な話題を話しあおうとする場合に効果的である。比較的抵抗なく重要なことを話すことができる。
対面法		積極的に説得を試みようとする場合は、正面で話しあうとよいといわれる。
並列法		相手を自由に観察することができるが、相手には自分の正面をみせない。一方的に観察者の位置と姿勢がとられており親密な関係は成立しにくい。
		事務的に聞きだすためには効果的であるが、共感的、親密な関係は成立しにくい。机で隔てられていると心理的に「安心感」があるが、情緒的關係を拒否している安心感である。

正

直角法 (90°法)		何か共通な話題を話しあおうとする場合に効果的である。比較的抵抗なく重要なことを話すことができる。
対面法		事務的に聞きだすためには効果的であるが、共感的、親密な関係は成立しにくい。机で隔てられていると心理的に「安心感」があるが、情緒的關係を拒否している安心感である。
並列法		協力的な対話をする場合に効果的である。相手を自由に観察することができるが、相手には自分の正面をみせない。一方的に観察者の位置と姿勢がとられており親密な関係は成立しにくい。

(2024年8月23日時点)